

評価実施年度	令和 7 年度	学校名	大分県立 臼 杵 高等学校	
学校教育目標	「誠実 勤勉」の校訓のもと、自主性・創造性にあふれ調和のとれた個性豊かな人間を育成する。			
重点事項	評価項目	評価の観点	評価	今後の改善方法(学校作成)
カリキュラム・マネジメントの確立	学校教育目標	○的確な学校経営ビジョンが策定されていて、学校教育目標の達成に資するために重点目標の焦点化が図られ、校長のリーダーシップの下、全教職員による教育活動が展開されているか。	・極めて良い。 ・校長および教頭の説明から、学校経営方針が明確に策定されていることが確認できた。 ・学校方針の実現に向けて全教職員による組織的な教育活動が展開されていると認められる。	・今後も変化し続ける生徒・学校・社会の状況を的確に把握して、しっかりと対応できる学校経営方針を策定するとともに、確実に実現できるように教職員全体で取り組みたい。
	PDCAサイクル	○重点目標を達成するための焦点化された取組指標や達成指標等が適切に設定され、機能しているか。 ○取組指標や達成指標等の評価・検証を計画的に行い、以後の実践に直ちに反映させるなどPDCAサイクルが確立しているか。 ○予期しない課題が判明した時点で、その解決に向けて校内分掌が速やかに機能するように、組織的な責任・運営体制は整備されているか。	・極めて良い。 ・PDCAによるマネジメントサイクルが確立されており、組織的な運営がなされている。 ・設定された達成・取組指標が重点目標達成に向けて適切に再検討し、次年度計画へ反映することを期待する。 ・不測の事態や予期しない課題が生じた際においても、組織として適切かつ迅速な対応がなされている。	・毎年度教職員の入れ替わりがあるが、持続可能な組織の運営ができるようにPDCAサイクルの意識を全教職員で共有・醸成していきたい。 ・学校評価においてもPDCAサイクルをしっかりと回し、適切な達成・取組指標の設定に取り組みたい。
	社会との連携・接続	○「開かれた教育課程」の理念に基づき、育成したい生徒像が家庭及び地域と共有されているか。 ・情報の伝達・公開を適切に行っているか。(ホームページ・SNSの活用、学校便りの発行等) ・生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握する取組を行っているか。 ・地域内外の関係機関との連携や人材を活用しているか。	・極めて良い。 ・学校HPがほぼ毎日更新され、教育活動を広く発信する媒体として有効に機能している。 ・ショート動画やSNSによる情報発信により、学校の魅力が広く発信されている。 ・外部人材を積極的に活用することで、社会との連携を強化し、教育活動の一層の充実を図ることができている。	・今年度は本格的に外部人材の活用に取り組んだ初年度であった。 今年度得た反省点を基に、より生徒にとって有意義な社会との連携ができるよう、活用方法の改善と幅広い外部人材の発掘に取り組みたい。
主体的・対話的で深い学びの実現	授業の活性化	○授業の活性化が図られているか。 ・学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。 ・授業のねらいに応じて、言語活動の充実を図ることで、「対話的な学び」が実現できているか。 ・授業の中で、知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を精査して自己の考えを形成したりする「深い学び」が実現できているか。 ・ICTを活用して、授業の効率化や授業の振り返りにつながっているか。 ○総合的な探究の時間や課題研究の学びとその他の教科・科目の学びが有機的に結びついているか。 ○生徒の学習習慣が定着し、学力及び学習意欲の高まりがみられるか。	・良い。 ・体育等の実技で動画教材等のICT活用が定着し、生徒が見通しを持って学習に取り組む姿が見られる。 ・ペアやグループ活動を取り入れるなど、協働学習への取組が多く見られた。 ・今後は、対話の質を向上させ、深い学びへと導くための授業設計にさらなる工夫が求められる。 ・総合的な探究の時間と他教科の学びが有機的に結びついている事例を複数確認することができた。 ・生徒アンケート結果では、家庭学習への肯定的回答が増加し、学習意欲の向上が見られる。 ・座席配置に関し、意欲の高い生徒が前方で授業を活気づけてほしいとの声が多く、向上心の高さが伺えた。	・対話的な学びを、生徒それぞれの考えを共有するだけの段階に止まらず、協議をすることによってより高次元な考えが導き出せるような段階まで行えるように努めたい。 ・生徒の声に今まで以上に耳を傾け、教員独自の考えで物事を判断しないように努めたい。
安全・安心な教育環境	いじめ・不登校等の対策	○計画的な面談・相談を通して、個々の生徒の状況を理解した上で、生徒指導が学校の組織を挙げて行われているか。 ○いじめ・不登校防止対策に取り組む体制が整備され、いじめ・不登校問題に対して適切な対応がなされているか。	・極めて良い。 ・ケース会議や生徒面談をきめ細やかに実施し、個別の状況把握に努めている。 ・いじめ・不登校問題に対し、組織的かつ継続的で丁寧な対応が認められる。 ・生徒の困りごとに対する支援や相談体制について、さらなる充実が期待される。	・現在得ている様々な生徒情報について、情報管理をしっかりと行いながら可能な限り共有し、担当の教員だけでなく全教職員が対応できる体制の構築に努めたい。
	安全管理	○学校施設等の安全点検や通学の安全指導及び教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。 ○学校事故や非常災害など、緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理体制が機能しているか。また、生徒の安全を確保するための具体的取組が行われているか。	・極めて良い。 ・安全・安心な環境構築へ、委員会活動や危機管理マニュアルの定期的な見直しが実施されている。 ・校内食料備蓄などの新しい取組も充実している。 ・生徒の安全確保に向けた取組を整理・管理するなど、計画的な実施と状況把握が図られている。	・危機的な状況はいつ発生するかわからない、という意識を持ち続け、今後もリスクマネジメントとクライシスマネジメントを両立させていきたい。
信頼される学校づくり	働き方改革	○生徒と向き合う時間を確保し、生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるよう、働き方改革が推進されているか。 ・会議・分掌業務、学校行事の精選、見直しが図られているか。 ・組織的な指導・運営体制の構築と学校の活動方針の徹底等による部活動改革に取り組んでいるか。 ・情報共有の効率化や校務情報化の推進など、ICTの効果的な活用によって業務改善が図られているか。	・業務量に比して教職員数が不足する中、働き方改革に向け組織的に最大限取り組んでいる。 ・業務改善システムの導入・運用に当たり、特定の教職員に負担が集中しない体制づくりが必要である。	・働き方改革に関して、教職員や学校が置かれている状況を今一度把握し直し、現実的・効果的な目標を設定したい。 ・今まで以上に、業務量を均等化できるような分掌構成に努めたい。
	学校課題の解決に向けた取組等	○定員確保に向けた取組	・学校の魅力化・特色化施策に加え、中学校との連携やHP等による情報発信の充実が努めている。 ・体験入学の参加者やSNSフォロワーが増加するなど、広報活動の成果が着実に表れている。	・学校HPやSNSの更新は例年以上に実施できたが、更新回数だけに固執することなく、更なる内容の充実や新たな広報方法の構築に取り組みたい。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営ビジョンに基づき、校長のリーダーシップの下でPDCAサイクルを組織的に機能させる体制が構築されており、高く評価できる。チェックにおいてはきめ細かい分析を行っており、次のアクションに向けて的確なビジョンを設定している。 ・代表生徒とのヒアリングを通して、多くの生徒が良好な人間関係のもとで安心して学校生活を送るとともに、教員の適切な支援を受けながら学習や部活動に励んでいる姿を確認することができた。 ・授業中のタブレット使用におけるルールについて、再度共通理解の場を設け改善を必要とする必要がある。 ・主体的・対話的で深い学びの実現については、生徒アンケートの結果から改善の兆しが見受けられるものの、引き続き全教職員が共通理解を深め、組織的に取り組むことが重要である。 			
校長コメント(次年度の改善策)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の重点目標の実現に向けて、本校教職員が熱心に取り組んだ結果、学校全体として大きな成果を得ることができた。一年間の熱い取組に感謝したい。 ・本校の授業重視の姿勢は、生徒にも浸透しつつあり、授業姿勢や理解度の高さは、アンケート結果としても現れた。目標共有化の重要性を再認識している。 ・社会との連携・接続が機能することによって、教育力は高まっていく。今後も地域の力をいただき、最大限に活用することで、教育的効果をなお一層高めていく。 ・地域に信頼される学校になるよう、また中学生に選ばれる、行きたい学校になるよう、引き続き取組を継続する。さまざまな声を広くいただき、対策を講じたい。 			